

Japanisch-
Deutsches
Kulturinstitut

公益財団法人日独文化研究所

所報

Newsletter des Japanisch-Deutschen Kulturinstituts

2025年度
第14号

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3号

大阪万博考

日独文化研究所 理事長 秋富克哉

この原稿に向かっている8月末日、大阪夢洲で開催中の「大阪・関西万博」は、連日さまざまな話題を提供しながら、終盤の盛り上がりのなか閉幕に近づきつつある。その一方で、大阪の万博と言われるとき、還暦を超えた世代にとってまず思い浮かぶのは、エキスポ'70の「大阪万博」であろう。

私事ながら、当時本州最西端の海峡の町で過ごしていた小学2年生の少年にとって、山陽新幹線も開通していない時代、大阪は、見知らぬ遠くの町だった。とはいえ、映像で見る岡本太郎作「太陽の塔」はあまりに強烈で、何とも異様なその姿は、しかし紛れもなく生きものだった。親が買ってきたアサヒグラフの特集号で紹介されている各国のパビリオンはどれも魅力的で輝かしく、全館マスターするほどに見返した。アメリカ館の「月の石」も、もちろん衝撃だった。幼いながら確かに感じられた世界の広大さ、とにかく無性に行きたくて、何度も親にせがんだが、結局夢は叶わなかった。大学で関西にやって来て、万博記念公園で太陽の塔の実物を初めて見た時の感動は、今もって忘れられない。青空に聳え立つ姿は、改めて生命を実感させた。公園内の跡地に立ち、かつての数々のパビリオンの姿を想像しながら、「兵どもが夢の跡」の思いに耽ったものだ。

国際博覧会の幕開けとされる1851年のロンドン万博以来、万博は人類の科学技術のその時々々の粋の結集であり、文明進歩のシンボルである。高度経済成長を遂げた我が国が、オリンピックに次いで万博を誘致できたことは、その明るい未来を祝福するものだった。万博ステージで披露された「戦争を知らない子供たち」も、戦後からの脱却の気運に一役買ったであろう。少年の私を感じた遠さは、大阪への空間的距離はさることながら、遥かな未来に対する憧れでもあったはずだ。

しかし、科学技術文明が人類に必ずしも明るい未来だけを約束するものでなかったことは、今や万人に共有されている。この瞬間にも世界で進行しつつある諸問題は、数え上げればきりが無い。それでも、世界中から夢洲に集められてきた科学技術の数々の成果には純粋な驚きを覚えるし、日々その研究開発に携わってきた人々の努力には敬意と感謝の念を禁じえない。われわれが浴している恩恵は、過去のどの時代よりも大きい。だが、そうであるからこそ、われわれには、今一度ここで立ち止まり、人類の科学技術文明がどこへ向かおうとしているのかをしっかりと見つめ、個々の立場から何ができかつ何をなすべきなのかを真剣に考える責任もまた、過去のどの時代よりも大きいと言わなければならないだろう。

令和6年度の活動報告

◎公開シンポジウム

連続テーマ「世界」の2回目として、「来たるべき世界の構図 — ロボットと仮想将来世代」をテーマに開催しました。

日時：令和6年12月1日（日）14時～17時
会場：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川大ホール

基調講演：石黒浩氏（大阪大学基礎工学研究科教授、ATR 石黒浩特別研究所客員所長）：「アバターと人間の進化」

西條辰義氏（京都先端科学大学フューチャー・デザイン研究センターディレクター、総合地球環境学研究所・名誉フェロー）：「フューチャー・デザイン」

コメンテーター：山極壽一氏（総合地球環境学研究所所長、本研究所名誉顧問）、本研究所理事・監事・評議員

参加者：56名

◎出版事業

* 西田幾多郎生誕150年・西谷啓治生誕120年を記念して令和4年に開催した国際ワークショップ「無／空の思想の現在と展望」のプロシーディング集を刊行しました。

* 令和5年11月にドイツで開催したシンポジウム「仏教とキリスト教の〈自然〉」のプロシーディング集を刊行しました。

* 年報「文明と哲学」第17号を刊行しました。特集は「人と人との間 — 宗教と精神医学」です。令和5年10月に開催した公開シンポジウム、連続テーマ「世界」の1回目「宇宙科学の世界像と仏教的世界観」についても掲載しています。

* 共同研究成果報告集 論集「共同研究 共生（続）SDGs と次世代への視座」を刊行しました。

◎哲学講座

* 令和6年度初夏講座

谷徹氏（立命館大学名誉教授・特別任用教授）、丸

橋裕氏（PATHOSOPHIA 主宰）、大橋良介氏（本研究所所長）、村井俊哉氏（京都大学大学院教授）を講師にお招きして、「哲学と精神医学が出会う時」をテーマにオンラインで配信しました。

全6回：令和6年6月28日（金）～8月2日（金）

受講者：41名

* 令和6年度中秋講座

朝倉友海氏（東京大学教授）を講師にお招きして、「東アジア哲学と意味の問題」をテーマにオンラインで配信しました。

全6回：令和6年10月2日（水）～11月6日（水）

受講者：19名

* 令和6年度初春講座

亀井大輔氏（立命館大学教授）を講師にお招きして、「ジャック・デリダの思想 — ハイデガーとの関係を中心に」をテーマにオンラインで配信しました。

全6回：令和7年2月26日（水）～4月2日（水）

受講者：51名

◎学術交流

* クリスティアン・ヴァルトホフ氏（ベルリン・フンボルト大学教授）を講師にお招きして、「議会法」をテーマに講演いただきました。

開催日：令和6年9月14日（土）

参加者：14名

場所：関西学院大学梅田キャンパス14階1405教室

* クリスチャン・ブムケ氏（ドイツ・プツェリウス・ロースクール教授）を講師にお招きして、「政党助成の憲法上の限界 — 近年の連邦憲法裁判所の判決に照らして」をテーマに講演いただきました。

開催日：令和6年9月22日（日）

参加者：15名

場所：追手門学院大学総持寺キャンパス1階

A521教室

令和7年度の活動計画

1. 第33回公開シンポジウム（連続テーマ「世界」第三回）

「リアリティとヴァーチャリティ — 現代世界を考える」をテーマとして1月12日（月）に対面式で開催し、越前功氏（国立情報学研究所教授）、林喜右衛門氏（観世流能楽師）にご登壇いただきます。

2. 出版物の刊行

年報「文明と哲学」第18号を刊行予定です。特集のテーマは「生命のゆくえ」です。

3. 哲学講座の開催（オンライン配信）

初夏講座に林英哉氏（関西大学准教授）、中秋講座に斎藤慶典氏（慶應義塾大学名誉教授）を講師にお招きいたします。また初春講座では、「未来世界を哲学する」シリーズ第4巻「家族と互助・共助の哲学」の編者の先生方にご登壇いただきます。

4. 日独国際ワークショップ「仏教の〈悲心〉と現代世界」

仏教伝道協会、西田哲学会上田閑照基金の助成を得て、7月31日（木）～8月2日（土）に京都市内にて開催します。

ドイツ便り

若者よ、ドイツへ行こう

林 英哉

私は20代の終わりから3年間、博士課程の学生としてドイツ西部のミュンスターという大学街で暮らした。ミュンスター大学はドイツでも有数の大規模大学であり、多くの日本人留学生が在籍していた。毎月 Deutsch-Japanischer Stammtisch（独日定例会）が開催され、様々な国から来た日本文化に興味がある学生たちが集まって共にカラオケをし、花見をし、日本食を作り、会話を楽しんでいた。ミュンスターの近くにはデュッセルドルフという世界有数の日本人街を有する都市があり、毎年5月には Japantag（ジャパントー）も開催されている。私が実際に体験したドイツでは、日本文化が確かに根を張り、息づいていた。

翻ってドイツ文化もまた、様々な形で日本に受け入れられている。オクトーバーフェストやクリスマスマーケットは、百貨店や公園で開かれる恒例の催事となっている。大阪・関西万国博覧会のドイツパビリオンも大人気だ。ドイツのロックが好きという学生もちらほら見かけるし、ドイツのサッカーリーグの試合映像も他国リーグに負けないう規模で配信されている。日本とドイツとのつながりは、ビジネス的な面だけでなく文化的な面でも意外と深いものがあると言える。

しかし近年の日本の大学では、ドイツ語を学ぶ学生やドイツにかなする分野を専攻する学生がど

んどん少なくなってきた。その背景には英語偏重の国際的状況や人文系の学問テーマの多様化などがあるが、この状況はドイツ関係の大学教員として非常にさみしいものがある。もっとも、この減少傾向は何もドイツに限ったことではない。K-Pop が大人気の韓国を除き、外国関係や国際関係の学問を専攻しようとする学生自体が以前よりも確実に減ってきているように思われる。

これは、近年若者の内向き志向が強まったと言われていることと関連しているのかも知れない。もちろん実際には海外志向を持った学生も一定数おり、多くの学生が留学やワーキングホリデーなど様々な形で海外へと旅立っていく。それゆえ、海外志向の人の割合自体は昔と変わっていないが、少子化でその絶対数が少なくなったと考える方が適切なのかもしれない。

ドイツには Fernweh という言葉がある。これは Heimweh（ホームシック）の対義語で、異国を訪れて異文化を体験したいという病的な欲求のことを指す。ドイツ人はこの病を患う人が多く、Urlaub（バカンス）時期には外国へこぞって出かけていく。現在、日本にはそうした人々が世界中から押し寄せている。日本の若者たちも、それに負けじと Fernweh を患い、海外へ、ドイツへと旅立って行ってもらいたい。



令和6年度の報告

◎事業報告

1. 事業状況

- ・「文明と哲学」第17号刊行
- ・哲学講座 初夏講座全6回、中秋講座全6回、初春講座全6回
- ・公開シンポジウム 第32回
 <以上、詳細は第2面令和6年度の活動報告をご覧ください>
- ・所報の発行 令和6年10月(第13号)

2. 公益財団法人日独文化研究所評議員・役員一覧(令和7年8月31日現在)

- ・評議員 木村元、清水扇丈、初宿正典、谷徹、松丸壽雄、村井俊哉、森哲郎
- ・理事 秋富克哉、安部浩、大橋良介、高田篤、高山佳奈子、林英哉、和田信
- ・監事 齊藤真紀、水野友晴

3. 理事会・評議員会の開催

- ・第46回理事会を令和6年6月10日開催し、次の議案について審議しました。
- 議案1 令和5年度の計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を承認する件

- 議案2 役員、評議員及び職員の出張旅費に関する規定を変更する件
- 議案3 いぎなみ監査法人との外部任意監査の契約を更新する件
- 議案4 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川館長エンツィオ・ヴェッツェル氏を顧問に選任(重任)する件
- 議案5 津野紀代志氏を顧問に選任(重任)する件
- 議案6 評議員会へ提出する役員等候補者名簿を承認する件
- 議案7 定時評議員会を招集する件

審議の結果、議案1～7は可決されました。また、次の事項について報告がなされました。

- 報告事項1 理事長および所長の職務の執行状況についての報告
- 報告事項2 共同研究成果刊行「共生と心身」(仮題)

- ・第23回評議員会を令和6年6月25日、書面によるみなし決議にて開催し、次の議案について審議可決いたしました。

- 議案1 令和5年度の計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を承認する件
- 議案2 秋富克哉氏を理事に選任(重任)する件
- 議案3 安部浩氏を理事に選任(重任)する件
- 議案4 大橋良介氏を理事に選任(重任)する件
- 議案5 高田篤氏を理事に選任(重任)する件
- 議案6 高山佳奈子氏を理事に選任(重任)する件
- 議案7 林英哉氏を理事に選任(新任)する件
- 議案8 和田信氏を理事に選任(重任)する件
- 議案9 齊藤真紀氏を監事に選任(重任)する件
- 議案10 水野友晴氏を監事に選任(重任)する件
- 議案11 エンツィオ・ヴェッツェル氏を顧問に選任(重任)する件
- 議案12 津野紀代志氏を顧問に選任(重任)する件

- ・第47回理事会を令和6年6月25日開催し、次の議案について審議しました。

- 議案1 理事長(代表理事)を選定する件
- 議案2 所長(代表理事)を選定する件
- 議案3 常務理事を選定する件
- 議案4 最高管理責任者を選定する件
- 議案5 研究統括管理責任者を選定する件

- 議案6 コンプライアンス推進責任者を選定する件
- 審議の結果、議案1～6は可決されました。

- ・第48回理事会を令和7年1月17日開催し、次の議案について審議しました。
- 議案1 「日独文化研究所存続プロジェクト素案」(令和6年1月29日理事会に提出分の再掲)

- 議案2 令和7年度事業計画案及び予算案等を承認決定する件
 - 議案3 令和7年度に基本財産、最大10,000,000円、を取り崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認決定する件
 - 議案4 人事について
 - 議案5 令和7年度の研究員採用の件
 - 議案6 評議員会を招集する件
 - 議案7 評議員の辞任に伴う後任評議員候補者の決定の件
- 審議の結果、議案1～7は可決されました。また、次の事項について報告がなされました。

- 報告事項1 理事長および所長の職務の執行状況についての報告
- 報告事項2 就業規則一部改訂について

- ・第24回評議員会を令和7年2月21日、書面によるみなし決議にて開催し、次の議案について審議可決いたしました。

- 議案1 令和7年度に基本財産、最大10,000,000円、を取り崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認決定する件
- 議案2 西川伸一評議員の辞任に伴って、木村元氏を後任として選任する件

- ・第49回理事会を令和7年3月7日、書面によるみなし決議にて開催し、次の議案について審議可決いたしました。

- 議案1 事務局長を選任する件
- 議案2 登記に掲載している URL を <https://nichidokubunka.or.jp> に変更する件(「http」を「https」に変更する趣旨)
- 議案3 三井住友信託銀行京都四条支店の口座を解約する件

◎財務報告

(令和7年3月31日現在、単位：千円)

資産				正味財産
基本財産	特定資産	その他固定資産	流動資産	
113,369	250	4,526	1,245	119,087

収入		支出	
賛助会費	その他	事業費	管理費
312	1,538	8,450	2,822

令和6年度には正味財産が9,483千円減少しました。公益目的事業においては、經常収益が実施費用額を下回っており、「収支相償の原則」を満たす結果となっています。なお、公益事業比率は74.4%となっています。

〈編集後記〉

長く名誉顧問を務めてくださいました裏千家の千玄室大宗匠が、本年8月14日にご逝去されました。生前の大宗匠は、ドイツ連邦共和国を含め世界中を訪れて、日本文化の粋としての「茶の湯」を通して国際交流に努められました。そのお姿は、日独学術文化交流を旨とするわれわれにとって鑑となっています。ご永眠に心からの哀悼の意を表すとともに、研究所の課題遂行への思いを新たにす次第です。

公益財団法人日独文化研究所 所報 第14号 令和7(2025)年10月1日発行

発行 公益財団法人 日独文化研究所
 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19番地3号
 Tel. 075-771-5200 Fax. 075-771-5242
<https://www.nichidokubunka.or.jp> zaidan@nichidokubunka.or.jp

編集協力 合同会社TAP